Ⅳ-289　景観分析による大潟町潟湖公園計画について

新潟大学　学生員　細野　泰生
新潟大学　正　員　鈴木　哲
大林組　　鈴木　太

１．研究の目的

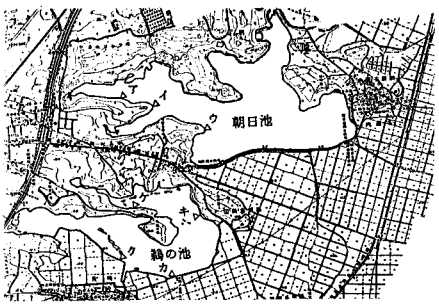
公園ではその景観的な特徴が、利用者の心理に大きな影響を及ぼしている。特に美しい自然を利用した自然公園や風致公園の計画では既存の景観を十分に利用し、景観の特徴を活かした計画が必要である。

本研究では大規模公園の計画がある地域で、既存の景観の心理的な影響を測定し、景観の持つ印象を明らかにし、それらの結果を公園計画に利用していくことを目的とする。

２．研究の方法

新潟県大潟町にある朝日池、鵜の池の２つの潟湖の水辺から７つの地点を選び、各地点の景観写真についてＳＤ法を用いた調査を行う。また、それらのデータについて因子分析を行う。

ＳＤ法については、７段階の評定尺度を用いた。また評定尺度に用いた形容詞対は対象空間の研究に関連の高いもの30対を選んだ。被験者数は30人とした。

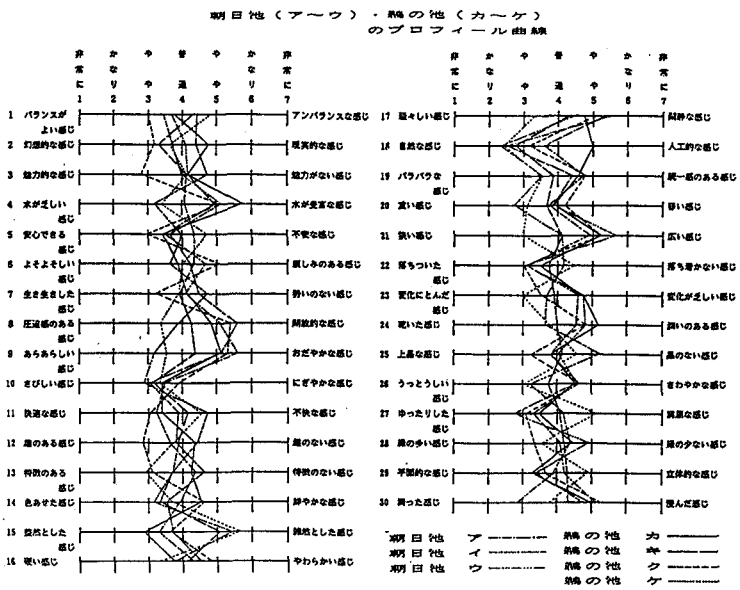


３．景観分析の結果

（１）ＳＤ法　ＳＤ法を用いた調査の結果から朝日池ではウ、鵜の池ではクの地点がそれぞれの池で最も印象がよいことがわかる。

朝日池ウは、８「開放的」．17「閑静」．18「自然」．21「広い」の各尺度で高い評価が得られている。

鵜の池クでは、１「バランスがよい」．２「幻想的」．３「魅力的」をはじめとして、５．６．７．８．11．12．13．25．30の各尺

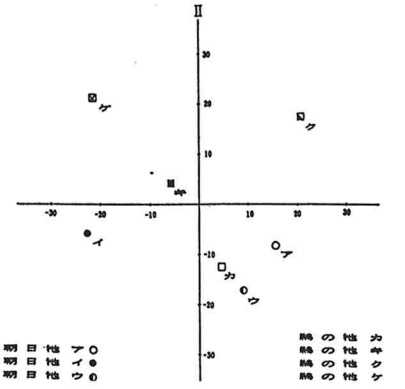


度で高い評価が得られいる。また特に低く評価された尺度はなく７地点のなかで最も印象がよい地点だといえる。

その他の地点の印象としては、朝日池アは９．11．15．17．30の各尺度で高い評価が得られているが、13．23の各尺度で評価が低く、よく整い、静かな印象が強い反面、特徴が少なく変化に乏しい印象を与えている。朝日池イについては、尺度18で評価が高い以外はかなり多くの尺度で評価が低く、印象はよくない。鵜の池カは４．９．15．21．24の各尺度で評価が高い。しかし、２「現実的」．18「人工的」．23「変化が乏しい」で評価が低く、コンクリート護岸の影響がみられる。鵜の池キは尺度15．17で低い評価となっているが、その他の評価は平均的である。鵜の池ケは多くの尺度で評価が低く、印象はよくない。しかしこの地点の特徴として、29「立体的」の評価が高いことがいえる。

（２）因子分析　因子分析の結果から因子寄与率の高いものから順に４つの因子軸を抽出した。それぞれの因子軸を構成する主な尺度から、第Ⅰ因子軸を「落ち着き因子」、第Ⅱ因子軸を「魅力性因子」、第Ⅲ因子軸を「自然性因子」、第Ⅳ因子軸を「おおらか因子」とした。ＳＤ法による評価が最も高かった朝日池ウ、鵜の池クの２つの地点については、朝日池ウが第Ⅲ、第Ⅳ軸の評価が高く、第Ⅰ軸の評価がやや高い。また第Ⅱ軸の評価が低い。鵜の池クは第Ⅰ軸の評価が非常に高く、第Ⅱ、第Ⅳ軸の評価が高い。また評価が低い因子軸はみられない。

Ⅰ軸（落ち着き因子）―Ⅱ軸（魅力性因子）

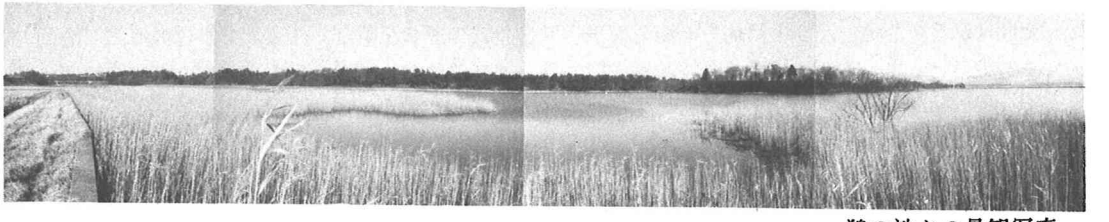


各軸の因子得点の合計から、鵜の池ク、朝日池ウ、朝日池ア、鵜の池キ、鵜の池カ、鵜の池ケ、朝日池イの順に印象がよいといえる。

４．まとめ

ＳＤ法による調査と因子分析の結果、それぞれの池の印象としては朝日池が自然な印象、鵜の池が変化があり魅力的な印象が強いことがいえる。

各地点の特徴としては、朝日池ウ、鵜の池クが両方の結果で印象がよいことがわかった。その他の地点の特徴としては、朝日池アは第Ⅰ軸の評価が高く、また「快適」「澄んだ」等の印象を与えている。朝日池イは第Ⅲ軸の評価が高く、「自然な」印象が強い。鵜の池カは第Ⅳ軸の評価が高い。また「潤いのある」印象を与える。鵜の池キは第Ⅱ、第Ⅳ軸の評価がやや高いものの、特に大きな特徴はなく７地点のなかでは平均的な景観である。鵜の池ケは第Ⅱ軸の評価が高く、そのほか「立体的」な印象を与えている。これらの結果から、最もよい印象の景観をもつ２つの地点については、眺望をゆっくりと楽しめる水辺や広場など公園の核となる機能をもたせ、その他の地点についても景観的な特徴を活かしたゾーニングを行なう必要があろう。



鵜の池クの景観写真